

富浦地区学校再編に関わる地区説明会（地区住民対象） 会議録

日時 令和8年3月13日（金）

午後7時00分から午後7時43分まで

会場 富浦中学校体育館

【当日関係者】

参加者	6人
検討委員	14人（4人欠席）
オブザーバー	2人（1人欠席）
事務局	12人（1人欠席）

1 開会

進行 皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、また、お疲れのところ、御出席いただき誠にありがとうございます。

本日の進行を務めます、教育委員会事務局学校再編整備課長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。

説明会に入る前に、1点お願いがございます。会議録作成のため、録音をさせていただきます。本日の会議録は、発言者のお名前を伏せた状態にして、ホームページに掲載したいと思いますので、御了承いただきたいと思います。

続きまして、お手元に配付しております、資料の確認をお願いいたします。

まず、「説明会次第」。

次に、「令和7年度 富浦地区学校再編検討委員会委員名簿」。

次に、本日の「席次表」。

次に、資料1「富浦地区学校再編検討委員会の検討状況」。

次に、資料2-1「富浦地区小中学校保護者対象のアンケート結果について」。

資料2-2として、「意見記述内容（要約）」。

次に、資料3「令和8年度 南房総市小中学校 児童・生徒数見込み（富浦地区・富山地区）」。

最後に、参考資料1・2として、過去に富浦地区で開催された説明会の質疑応答の要約資料で、検討委員会で配付されたものをお配りしております。

資料は以上の9種類となります。

不足等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ただ今から、富浦地区学校再編に関わる地区説明会を開会いたします。

2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。

穂積委員長、お願いいたします。

委員長 皆様、こんばんは。

今日一日の仕事を終え、今夜は一段と厳しい寒さの中、夜分お疲れのところ、また、年度末の大変お忙しい時期でございますけども、この説明会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私ども富浦地区学校再編検討委員会では、令和5年11月に第1回目の会議を開いてから、全7回、約2年間、この富浦中学校と富山中中学校との再編について、統合するのか、統合しないのか、その方向性について検討を重ねてまいりました。

子どもたちの将来に関わる教育環境を考えたとき、学校再編に関し、どのような選択をすることが良いのか。そうした会議を重ねる中、現在の統合案について、保護者の皆様方からの疑問や懸念も根強くあり、なかなか結論を得られない状況が続いておりました。

そうした中、今年に入りまして、1月7日に開催しました第7回目の会議におきまして、保護者代表の委員から、アンケート結果の報告がございました。PTAの皆さんが大変時間をかけ、集めていただいたアンケートでしたが、その結果は、統

合の賛否が拮抗しており、少し反対が多いというものでございました。

この後、事務局からその内容について説明がありますが、私ども富浦地区学校再編検討委員会としての判断は、富浦中学校の再編についての結論を一旦保留するというものとなりました。

本日ここに説明会を開催したのは、富浦中学校と富山中学校の統合について、保留というような判断をしました経緯を御説明するため、これまでの学校再編検討委員会の検討状況、そして保護者アンケートの結果、また、今後についてお伝えをするための会といたしたところでございます。

質疑・意見交換のお時間をこの後設けておりますので、皆様からの御意見など、お寄せいただければ幸いと存じます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。御苦勞様です。

進行 ありがとうございました。

3 教育長挨拶

進行 続いて、次第の3、教育長挨拶。

三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 改めまして、こんばんは。

寒い中御出席いただき、大変ありがとうございます。

今委員長からお話がありましたように、令和5年から再編検討委員会を立ち上げていただいて、協議を進めております。この富浦中学校と富山中学校の統合ということ为前提に、私どもとすると検討委員会を立ち上げています。当時、問題意識として持っていたものがより顕在化してきているのが、今の状況であります。

後ほど担当のほうから資料で説明しますが、来年度、令和8年度の富浦小学校の6年生の通常学級の人数は28人です。5年生が24人、4年生が16人、3年生が14人、2年生は9人、1年生が12人ということで、極端に少なくなってきております。

私どもは、この12人・9人、こういう人数の学年で中学校生活を送らせていいのかどうか、これについて富浦地区の結論をいただきたいという思いで、再編検討委員会を立ち上げております。少ない人数で、メリットもありますしデメリットもあります。

中学校生活が10人程度の学級の人数でいいのかどうかということで、検討いただいていたわけですけど、先ほど委員長からありましたように、この1月にアンケートの結果をいただきました。アンケートの結果としましては、賛成が91、反対が109という結論をいただきました。ただ、合計200ですが、実家庭数は192であります。一人でも多いほうを結論とするとなると、このアンケートとすれば、ちょっと精査しなければならない問題があるのかなと考えております。

たくさんの自由意見もPTAの役員の皆様からいただいて、それも資料として私どももいただいております。私どもとすると、アンケートに賛成・反対の結果は、それはそれとして、保護者の皆さんがどういう考えを持っているか、話し合っただけで結論をいただきたいというのが私どもの願うところであります。

といいますのは、5年後・10年後、さらに子どもたちの数が少なくなっていくときに、当然このままではまずいだろうというような考えが出てくると思います。そのときに、今から5年前・10年前にアンケートを取って、多いほうを結論とした。それだけでは、次に問題が出てきたときに、私どもは対応のしように困るわけです。その時点でまたアンケートを取って、賛成が多かったら協議を進めていくのか。そうではなくて、5年前・10年前、保護者の皆さんが話し合っただけで、メリット・デメリットはあるけど、こういうメリットを求めて、統合しないで富浦中学校だけでやっていこうというような結論があれば、それをもとに5年後・10年後も私どもは協議を進めていけると思っています。

いずれにしても、自由意見ということで、保護者の皆さんから貴重な御意見をいただいております。PTAの皆さんからは、自分たちはもう精一杯やってきたので、これ以上できないということで、あとは教育委員会でまとめてもらいたいというような話がありましたので、1月以降、私どもは自由意見をまとめて、後ほどお示しする資料としてあります。それをもとに、保護者の皆さんがどういう意見を持っているか。それを皆さんに御理解いただいて、その上で御質問なり御意見なりをい

ただければ大変ありがたいと思っています。

今日いただいた御意見をもとに、26日に予定しています、再編検討委員会で協議をしていきたいと思っておりますので、どうか忌憚のないところで御意見いただければ大変ありがたいと思っております。

よろしく願いいたします。

4 説明

進行 続きます、次第の4、説明に移ります。

ここからは、穂積委員長に進行をお願いいたします。

委員長 それでは、次第の4、説明に入ります。

(1)「富浦地区学校再編検討委員会の検討状況について」、(2)「保護者アンケート(自由意見調査)の結果及び今後の検討について」、事務局から一括して説明をお願いいたします。

その後、次第の5、質疑・意見交換に移り、全体を通して、皆様方から御質問や御意見などを頂戴したいと思っております。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、次第の4、説明の(1)「富浦地区学校再編検討委員会の検討状況について」御説明いたします。

資料1を御覧ください。

今後、富浦中学校の生徒数が減少していくことが見込まれ、学校の集団活動における制限の発生や、教職員の配置数の減少など、教育環境に影響を及ぼすことが懸念されることから、令和5年度に富浦地区学校再編検討委員会を発足し、まずは富浦地区として、富浦中学校と富山中学校を統合するか否か、その方向性の検討をしていただいております。

令和5年11月10日に第1回目の検討委員会を開催し、これまでに7回の会議が開催されております。会議の合間には、保護者による意見集約なども行われてき

ました。

教育委員会としては、生徒数を確保するための案として、富浦中学校と富山中学校の統合を提案してまいりましたが、令和5年当初から、災害時や警報時の御心配や、三芳地区を再編に含まないのかという御意見をいただいております。

これについて、非常時の子どもの引渡しについてはルールを定めて対応していることや、三芳地区では民間企業による住宅地造成などの影響もあり、人数減少が緩やかな傾向があることから、今回の再編には含めない考えなどを説明してまいりましたが、依然として同様の御意見をいただいている状況であり、学校再編検討委員会としても結論が出せない状況が続いております。

令和6年度の最後に行われた第5回会議では、保護者委員から、「統合に賛成」と「今はその時期ではない」という2択のアンケートを、小・中学校の保護者に対して行ったということで、その結果報告がありました。未回答数が多かったものの、回答していただいた数字を見ますと、小学校においても中学校においても、「今はその時期ではない」という、統合に消極的な意見が若干多かったという結果でした。

また、この会議の中では、学識経験者委員より、将来的に、富山地区・三芳地区なども含め、いろいろな角度で再編について検討してほしいとの御意見がありました。

資料の2ページ目に入りまして、今年度の協議状況については、第6回会議を開催し、これまでの会議の振り返りを行ったところ、保護者委員から「今回の会議資料を再度保護者に説明し、意見を取りまとめた」との要望があったため、教育委員会も協力する形で保護者説明会を開催することとなりました。

また、事務局からは、三芳地区を含む統合について、将来的には3校での統合を視野に入れることも必要と考えられるものの、現状、3地区の生徒数を収容できる校舎がないことや、特別支援学級の増加によって、以前よりも必要な教室数が増えている状況などを説明し、現状は2校での統合を御協議いただきたい考えを説明しました。

資料の灰色の網掛けになっている内容については、PTA役員が主体となって動いていたものになります。

7月24日に、富浦小・中学校PTA主催の保護者説明会が開催され、教育委員

会は説明者として出席いたしました。保護者の参加者は約70名であったとのことでした。

9月11日に、保護者説明会の資料と会議録を保護者に周知し、富浦中学校と富山中学校の2校の統合について、賛成意見・反対意見を募る自由意見調査が行われました。

また、11月10日には、その自由意見調査の結果を保護者に周知し、富浦中学校と富山中学校の2校の統合について賛否を問うアンケートが実施されました。このアンケートで1票でも多いほうを、保護者の意見として検討委員会に報告することを、アンケートに記載したとのことでした。このアンケートの回答数は200あり、賛成が91、反対が109でした。

令和8年1月7日に第7回会議が開催され、保護者代表からアンケート結果の報告がありました。アンケートで反対が上回ったことから、保護者としては富浦中学校と富山中学校の2校の統合に反対とし、検討委員会については解散を求めるとの発言がありました。また、今後は教育委員会に対し、保護者側が納得し、次に進めるような統合案を提示してもらいたいとの意見がありました。

アンケートにより結論を得ようとした理由については、保護者の代表として統合の是非について決めかねたこと、また、全く話が進まない状態が続いていることから、いずれの結果になろうとも次に進めたいという思いがあったことが説明されました。さらに、アンケートや意見集約の負担が大き過ぎるため、PTAとしてはここで終わりにしたいというお話もありました。

検討委員会では、保護者代表からのこの報告内容について意見が交わされ、「それぞれで話し合っ、これで良いであろうと、話し合いの中で判断をしていく委員会ではないだろうか。もうちょっと考えてもう一回やれないだろうか」と、協議の継続を呼びかける意見や、「このまま小規模になって良いのかということを考えている方は、反対意見の中にもいるのではないか」「統合して生徒数が増え、友人関係が広がったりいろいろな価値観に触れる機会が増えたりすることは、子どもの成長に大きな影響を与える要素ではないか」など、アンケートの内容に踏み込んで、検討の必要性を訴える意見が、区長代表の委員からあがりました。

教育委員会からも、これまでアンケートの多数決で結論を出したことはなく、ア

ンケートを受け、それをもとに議論し、意見を集約していき、結論を出してきたことを説明しました。

最終的に、保護者代表は態度保留とするとされましたが、これ以上の意見集約は困難であるということで、教育委員会において自由意見調査書を精査し、新たな提案をしてもらいたいとの意見でした。

これらを受け、富浦地区学校再編検討委員会としては、アンケートの賛否が拮抗していることや、富山地区の学校再編検討委員会では、既に富浦中学校との統合の方向で合意されている点も踏まえると、ここで検討を終了させるのは望ましくないとしつつ、会議の状況を鑑みて、富浦中学校の再編の方向性については、結論を保留することとなりました。

また、保護者により行っていただいたアンケートを教育委員会において精査し、その結果によって新たな提案や、今後の富浦地区の状況の変化により検討を再開できるよう、協議を引き継いでいく方針となりました。

事務局 続きまして、説明の（２）「保護者アンケート（自由意見調査）の結果及び今後の検討について」御説明いたします。

資料２－１を御覧ください。こちらは、PTAで実施いただいたアンケートについて教育委員会で内容を整理し、結果について考察した資料となっています。

ここまでの説明にありましたように、今年度、富浦小・中学校PTAにおいて行われたアンケートは二つありまして、１つは、富浦中学校と富山中学校の２校の統合についての自由意見調査で、もう１つは、富浦中学校と富山中学校の２校の統合について、賛否を問うものでした。

この二つ目のアンケートにおいて、１票でも多いほうを保護者の意見として、学校再編検討委員会へ報告されました。このアンケートの回答数は２００件あり、賛成が９１件、反対が１０９件でした。しかし、小・中学校合わせて１９２の家庭数しかないところ、２００件の回答があったことから、小学校と中学校それぞれにきょうだいがいる場合に重複回答が発生したことが考えられ、数字として少し正確性を欠くものとなってしまいました。

教育委員会としては、このアンケートの数字をもって保護者の意見が学校統合に

反対であると、そのまま受け止めることはできない内容であると考えております。

資料の1ページ目の中段、「2. 自由意見調査について」ですが、第7回の検討委員会において、「自由意見調査に保護者の意見が全て記載されているので、教育委員会で精査してほしい」と、保護者の委員から要請がありました。

この調査は、2校の統合について、賛成意見と反対意見に分けて記入を依頼されたもので、回答数は72件あり、賛成意見に記載されたものが27件、反対意見に記載されたものが24件、賛成意見と反対意見どちらにも記載されたものが21件ありました。全く同じ内容、同じ筆跡という、明らかに重複していると判断できたものについては除いた数となっております。

同じく1ページ下段の「3. 自由意見調査の回答内容」には、記載されている意見の抜粋を載せております。

賛成意見については、賛成意見のみ書かれたものと、賛成・反対どちらも記載されたもののうち賛成意見に書かれたものから抜粋しています。資料2-2のほうに、もう少し細かく載せておりますので、後ほど御参考にしていただければと思います。

賛成意見の内容を見ますと、生徒数が増えることで、子どもの成長に良い影響や効果があると考えられる内容や、行事や部活動の活発化を期待するなど、普段の学校生活、教育環境をより良くすることを念頭に書かれた意見が多くありました。また、賛成意見の中にも、通学路などで不安な点はあると書かれた方もいらっしゃいました。

続いて、反対意見については、いくつかの傾向に分けることができました。これは、反対意見のみ記載されたものと、賛成・反対どちらも記載されたもののうち反対意見に書かれたものから抜粋しています。

反対意見に書かれた内容にも、学校の統合そのものは否定していない意見が多くありました。賛成意見の中に不安を書いた方がいたように、統合による効果は理解できるものの、様々な要因で悩んでいらっしゃる方が多いということが伺えます。

反対意見に記載したものの、統合には賛成・または統合を否定していないと捉えられる意見には、大きく二つのパターンがありまして、一つ目は、三芳地区などを含めた、現在の統合案よりもさらに広範囲での統合を望む意見が11件、二つ目は、通学路への不安などを持つ意見が15件ありました。

また、反対意見として、統合への賛成部分が認められない意見、ものによっては統合を否定していないと読み取れるような微妙なラインのものも含まれますが、その内容を見ますと、仮に富山地区への統合となった場合について、災害時・警報時の不安や、通学距離増加に対する不満、送迎の不便さなどに関する意見が5件。学校の位置や市への不満、その他、富浦地区の生徒数は増やせないのかなど、様々な理由から反対するものが6件。少人数の学校のほうが良いと考えるものが2件。

また、その他については、賛成・反対両方記載されたもののうち、以上の分類以外の反対理由の記載があったものとして、5件。統合の賛否について決めかねるといったものが1件ありました。

次の4ページ目に移りまして、「4.自由意見調査の結果からの見解」としまして、統合の是非について着目してみますと、賛成意見のみ記載された方が27件、賛成意見と反対意見の両方を記載した方と、反対意見に記載したけれど統合そのものは否定していなかった方が、合わせて31件。これらを合わせると、およそ8割の方が、中学校の統合に関心を寄せていることわかります。

次に、自由意見調査の回答内容について着目したい点として、点線で囲っております。賛成意見には、統合により生徒数が増えることが教育環境の改善に、そして子どもの成長に良い影響を与えると考えるものが多くあります。統合することのメリットの部分について多くの方が理解し、肯定的に捉えていることが伺えます。この内容だけ見ても、中学校の再編に取り組んでいくことは必要ではないかと考えます。

反対意見には懸念点も多く寄せられておりますが、通学路の経路や統合の時期など、今後の会議の中で課題解消に取り組む予定の内容も含まれております。仮に今後の会議で、その課題が解消できなければ、統合が難しいという結論になる場合もありますので、いずれの結果となっても、教育委員会としては、学校再編についての結論が得られるよう、検討を進めていただきたいという立場でおります。

最後に、資料3を御覧ください。

こちらは、今年1月末時点で教育委員会が把握している、令和8年度4月からの児童・生徒数の見込みとなっております。上の表が富浦地区の子どもたちの数になりますが、新年度の小学4年生以下は、一学年20人以下の人数となる見込みとな

っております。特別支援学級の人数を引いた通常学級の人数を、黄色の塗りつぶしでお示ししておりますが、小学2年生は9人となる予定です。この子たちが中学校に進学するまで、あと5年です。他の学年に関しても、例えば私立へ進学する御家庭もありますので、見えている数字以上に人数が減ってしまう可能性もあります。

先ほどまでの自由意見調査の内容、そして、数年後の中学校の人数を考えますと、教育委員会としては引き続き、一定の生徒数を確保できるよう学校統合をすることが望ましいと考えております。新たな案というのは、現時点でお示しできるものはありませんが、ここで検討が止まってしまわないよう、来年度以降も、引き続き富浦地区の皆様にご協賛を進めていただけるよう、お願いしてまいりたいと考えております。

以上で説明を終わります。

委員長 説明ありがとうございました。

5 質疑・意見交換

委員長 説明が終わりました。それではこれより、次第の5、質疑・意見交換に移りたいと思います。

ただ今の説明に対して、御質問・御意見やその他、聞きたいことがある方は、挙手をお願いいたします。

事務局員がマイクをお持ちしますので、自席においてお待ちください。マイクが届きましたら、お名前を述べていただき、御発言をお願いしたいと思います。どんなことでも結構です。御質問、御意見等はございませんでしょうか。

なお、発言される場合にマスクをされていますと、なかなか音声を捉えづらい場合がありますので、その場合にはマスクを外して、マイクを有効に御利用いただきたいと思います。

それでは、ただ今の説明に対して、これはどうなんだというところがありましたら、遠慮なさらずに、手を挙げて御発言をお願いしたいと思います。

はい、どうぞ。少々お待ちくださいね。

参加者 このアンケートはほとんど保護者の意見しかないと思うんですけど、通ったりするのは子どもなので、子どもがどう思っているのかを、子どもたちに聞いてほしいなというのがあります。

今は保留と言っていたので、関わってくるのは小学生くらいかなって思うんですけど、小学生の低学年に聞くのは、先が見えないからちょっとわからないかもしれないんですけど、それはうまく先生たちに説明してもらって、実際に子どもたちが他の学校と一緒にになりたいのか、それとも今のままでいきたいのか、統合するところということになるよとか、統合しないとこういうふうになるんだよというのを、ちゃんと説明して、子どもたちがどういうふうに思っているのかというのを、一旦アンケートを取ってもらって、子どもたちは実際にこういうふうに思っているんだよというのをちゃんと聞いてほしいです。

委員長 教育長、お願いします。

教育長 昨日の保護者への説明会でも同様の意見が出ました。

例えば、今、白浜小学校は一クラス4人・5人という状況が見えています。4人・5人で小学校生活を送ることがいいのかどうかということ子どもたちに聞いて、子どもたちは何を根拠に考えるのか。小学校生活をまだ十分に送っていないわけですね。ですから、子どもたちにそういう意見を聞くのは、子どもたちにとっても非常に困ることだと思います。

小学校の子どもたちも、中学校生活は経験していないわけです。経験していない中学校生活について、少ない人数でいいですか、いけないですかと聞いたときに、子どもたちは何を根拠に考えるのか。これは、子どもたちに問うことではないと思っています。

私も大人は、小学校も中学校も経験しています。そして、それをもとに今社会生活を送っています。ですから、大人の見識、あるいは大人の経験を踏まえて、子どもたちが小学校生活を送るのには、あるいは中学校生活を送るのにはどうしたらいいかというのを、大人の責任で考え、判断するのが最も良いことだと思っています。

す。

したがいまして、私どもすると、これまで学校再編を進めてきておりますけど、今言ったような理由で、子どもたちへのアンケートとか、そういうものは取っておりません。

参加者 いや、それは教育長の考えであって、私達保護者がアンケートを取ってほしいって言っているんだから、実際それは取ってもらってもいいんじゃないんですか。

教育長 今、保護者のアンケートを説明したと思います。保護者であっても意見が揺れているわけです。そういう内容のものを子どもたちに問うて、繰り返しになりますけど、子どもたちが何をもとに考えて、どういう判断をするのか。それは子どもたちにとっては、非常にできかねることだと思います。

要望としては理解できますけど、私どもがそれを問うて、大人でさえ難しい問題を子どもに問うことが、果たして適切なことかどうか。これはお考えいただければと思います。

委員長 ただ今の回答でよろしいですか。

参加者 いや、よろしくないです。

だって、実際、統合するか統合しないかをそれで決めるわけじゃなくて、子どもたちがどう思っているか、ただその意見を聞いて、それで確実に決めるわけではないから、実際うちの子に聞いたら、「統合は嫌だ」って言っていました。それで、「何で？」って聞いたら、勉強とかじゃなくて、ただ自転車で学校に通ってみたいということ言っていました。だから、そういう理由で嫌だっていう場合もあるし、子どもたちがどういうふうに思っているかっていうのを聞いてほしいだけであって、ただそれを聞くだけなのに、何で駄目なんですか。それで保護者があれとかじゃなくて。

教育長 白浜でも同様の意見が出ました。

お子さんの考えを聞くのなら、それぞれの家庭で聞いていただきたいと思います。
家庭で聞いて、保護者の集まりの中で、その意見をもとにして協議していただき
て、結論をいただきたいということです。

教育委員会として、子どもたちにアンケートをしたり、子どもたちの考えを聞く
つもりはありません。今おっしゃったことは、その保護者の集まりの中で、自分の
うちの子どもはこんなふうに言っていたという意見を、ぜひ保護者の中で議論して
いただいて、保護者として結論を出していただきたい。これが私どもの考えです。

別に子どもの考えを聞くことを否定するわけじゃありませんし、保護者のお考え
で、子どもの意見を聞く。我が子の意見はこういう意見だった。そういうものをぜ
ひ保護者の集まりの中でおっしゃっていただいて、保護者の意見としてどうなのか
ということでまとめていただきたいというのが、当初から私どもがお願いしている
ことであります。

委員長 ただ今の回答でよろしいですか。

とにかく、今、大人でも統合がどうなのか、そういう問題に悩んでいる中で、小
さな子どもさんに「どうなんだ」と聞くことも、多少酷な部分もあると思います。
ただ、家庭の中ではそういう議論をされるのは大いに結構だと思います。その発言
を何らかの形で表に出すような機会を、なるべくとられてはいいかなものではな
いか。

参加者 もういいです。

委員長 よろしいですか。

他に御質問はございませんか。

《しばらくの間》

委員長 ただ今、事務局のほうから説明いたしましたのは、保護者アンケートのお答えに
基づいてさらに分析したものを、皆さん方に表としてお示しし、また説明を加えた

ものです。

ただ今説明をした時点で、すぐにこれはという質問といったものも、なかなか見出せない部分もあろうかと思えますけども、これまで説明したものに対して、いかがでしょうか。どんなことでも結構です。

《しばらくの間》

委員長 他に御質問はございませんか。

特にないようであれば、この時点で質疑・意見交換を終えたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ただ、先ほど申し上げましたように、資料はただ今お示しいたしました。したがって、後日何かお気づきになった点があれば、あるいはもっと知りたいという点があれば、直接事務局へお問い合わせをいただきたいと思っております。

それでは、これで終了したいと思います。次第の5、質疑・意見交換を終わります。

進行について、事務局にお返しいたします。

進行 穂積委員長、進行ありがとうございました。

6 その他

進行 次第の6、その他ですが、全体を通して何か御発言のある方はいらっしゃいますでしょうか。

《しばらくの間》

7 閉会

進行 ないようでございますので、それでは、以上をもちまして、富浦地区学校再編に関わる地区説明会を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。